

# 経負坂古墳群 II

(KEOIZAKA KOFUNGUN)

一般県道草野・横田線(東比田工区)特別県単事業に伴う  
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

2003年 3月

広瀬町教育委員会

# 経負坂古墳群 II

(KEOIZAKA KOFUNGUN)

一般県道草野・横田線(東比田工区)特別県単事業に伴う  
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

2003年 3月

広瀬町教育委員会

## 序

広瀬町は月山富田城跡を始めとして、数多くの遺跡が存在する歴史豊かな町であります。中でも比田地域は古来よりタタラによる製鉄が盛んに行われた所として知られています。

この度東比田の県道草野・横田線建設工事中に古墳時代の横穴墓一基が発見され、中から人骨二体とともに刀を始めとする鉄製品や勾玉など多くの出土品が発見されました。

これらの成果は当地方、特に比田地域の歴史を考える上で貴重な資料となるものです。

最後になりましたが、本遺跡の発掘調査にご指導、ご協力いただきました関係機関、関係者、地元東比田を中心とする町民の方々に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも文化財の保護にご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願ひ申し上げます。

平成 15 年 3 月

広瀬町教育委員会

教育長 村 上 晴 夫



## 例　　言

1. 本書は島根県広瀬土木事務所の委託を受け、広瀬町教育委員会が平成14年度に実施した県道草野・横山線建設予定地内埋蔵文化財（経負坂古墳群）の緊急発掘調査報告書である。

2. 発掘地の住所は次の通りである。

島根県能義郡広瀬町東比田1340他

3. 調査組織は次の通りである。

調査主体 広瀬町教育委員会 教育長 村上晴夫

事務局 加納 弘（教育次長）

山本由弥子（次長補佐兼文化財係長）

石原 敏治（文化財係主任）

調査担当者 舟木 聰（文化財係主任主事）

調査補助員 金子 義明（文化財係嘱託職員）

発掘作業員 菊生 盛、柴田孝二郎、柴田 定大、山辺久仁子、山辺 晴子、藤原 千代

整理作業 今岡 利江（臨時職員）山本 千草（臨時職員）

4. 発掘調査及び報告書の作成にあたって以下の方々、機関から御指導・御助言・御協力をいただいた。記して感謝したい。（敬称略）

西尾克巳（島根県埋蔵文化財調査センター）、伊藤徳広（島根県教育庁文化財課）、島根県広瀬土木事務所、有限会社山本工業

5. 出土した人骨の取り上げ及び鑑定は鳥取大学医学部井上貴央教授に依頼し、巻末にその結果を収録した。

6. 本書で使用した方位は磁北を示す。

7. 遺構の実測は舟木、金子が、出土遺物の実測及び図版の作成は舟木のほか今岡、山本が行った。

また遺構及び遺物の写真は舟木が撮影し、出土鉄器のX線写真は島根県埋蔵文化財調査センターに撮影を依頼した。

8. 本書の編集・執筆は舟木が担当した。

9. 本遺跡出土資料及び実測図、写真等の記録資料は広瀬町教育委員会で保管している。

## 目 次

序 文	
例 言	
目 次	
I 位置と環境	1
II 調査に至る経緯	1
III 遺跡の概要	5
1. 3号横穴墓	5
IV 出土遺物	5
Vまとめ	10
付編 経負坂古墳群出土人骨の鑑定結果について	11
写真図版	

## 挿 図 目 次

第1図 周辺の遺跡	2
第2図 3号横穴墓位置図	4
第3図 3号横穴墓実測図	7
第4図 玄室内出土遺物実測図1	8
第5図 玄室内出土遺物実測図2	9
第6図 平成12年度調査時出土遺物実測図	9

## 表 目 次

表1 周辺の遺跡	3
表2 3号横穴墓出土金属器観察表	6
表3 3号横穴墓出土玉類観察表	6
表4 平成12年度調査時出土須恵器観察表	6

# I 位置と環境

経負坂古墳群は広瀬町の南東端にあたる東比田に所在する。東側は能義郡伯太町、西は仁多郡仁多町と、そして南は猿隱山を挟んで鳥取県日野郡日南町及び接しており、出雲国と伯耆国の境界近くに位置する。

古代の行政区画では仁多郡に属する地域である。東比田地域では古代の遺跡はあまり知られておらず、昭和6年に県道工事の際に発見され、人骨3体と共に須恵器等が出土した松本横穴群が知られているのみである。

対して西北田地区では幾つかの遺跡が存在している。

殿ノ奥遺跡では平成10年の圃場整備中に縄文～近世にかけての土器・陶磁器等が出土しており、隣接する庵ノ上遺跡でも須恵器・土師器が出土している。

中世に入ると城館遺跡が多く見られるようになる。東比田地域では伯太及び布部への分岐点に位置し、藤内氏の居城と伝わる道分城跡、虫木に所在し、茂那木氏の居城と伝わる虫木城跡がある。また西北田には吉川元春の居城と伝わる諫防山城跡、細田城跡等の城館遺跡が点在する。

近世以降には製鉄関係遺跡が顕著に見られるようになり、東比田では夫婦松成鉢跡、大呂谷鉢跡、西北田にある市原鉢、芝原鉢が知られている。

しかし比田地域では正式に発掘調査が行われた遺跡は少なく、梶福留地区で平成8年送電線鉄塔建設中に発見され、玄室内部から人骨8体と共に鉄器類と須恵器が出土した足子谷横穴墓のみである。

# II 調査に至る経緯

経負坂古墳群は平成12年度に発掘調査を行い、宝鏡印塔を伴う中世の塚、縄文時代の土壙群、横穴墓2穴が確認されている。当時伐採した樹木の搬出用道路を造成中に須恵器の長頸壺が3個体出土したため、横穴墓の存在を想定し付近を精査したが発見できなかった。

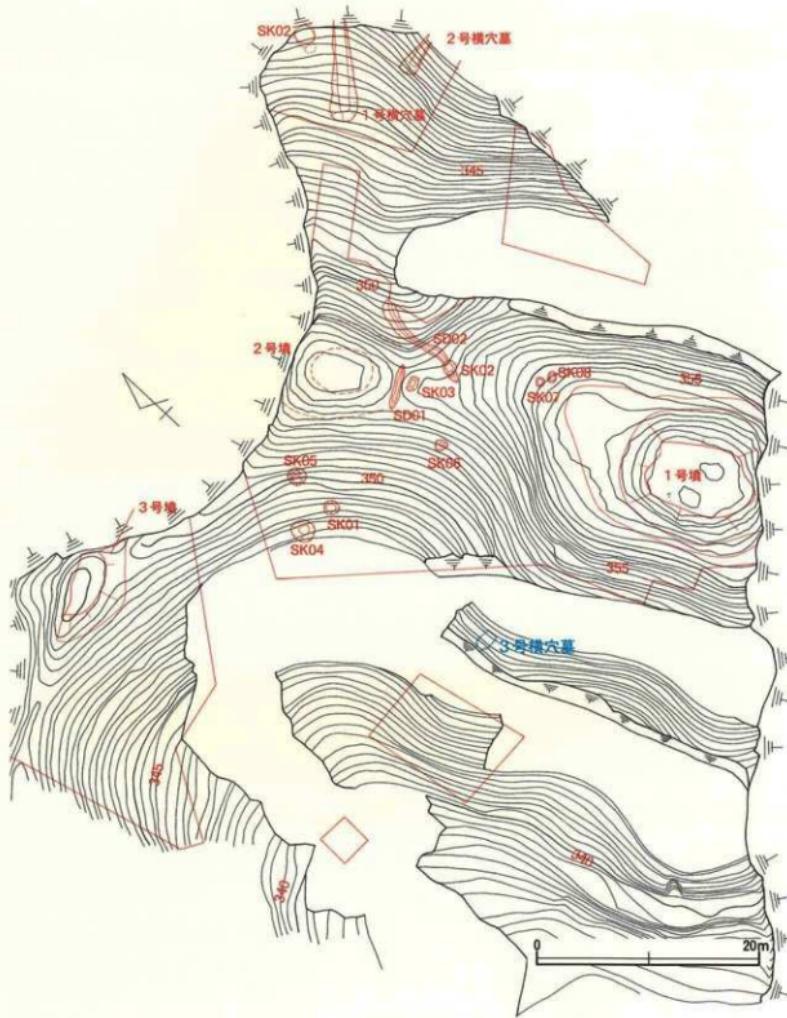
その後平成14年6月に遺跡の丘陵西側斜面が掘削された際に洞穴のようなものが開き、骨が出土した旨、島根県広瀬土木事務所より連絡があり、現地を確認したところ横穴墓であることを確認した。

横穴墓は重機による掘削の際、前庭部及び玄門が破壊され、玄室のみが大きく開口している状態であったため、当時実施中であった広瀬藩邸跡の発掘調査を急遽中断し、横穴墓の緊急発掘調査を実施することになった。



表1 周辺の遺跡

番号	名 称	種 別	所 在 地	概 要	備 考
1	経負坂古墳群	横穴・古墓	東比田瀧谷	H 12・14 年度発掘調査。横穴墓3基、宝篋印塔	本報告書
2	松本横穴	横穴	東比田松本	須恵器	
3	露ヶ城跡	城館跡	東比田道城	曲輪、堀切	
4	道分城跡	城館跡	東比田道城	曲輪、堀切	
5	道城古墓群	古墓	東比田道城	宝篋印塔、五輪塔	
6	夫婦松成鉢跡	製鉄遺跡	東比田永田	鉄滓	
7	大呂谷鉢跡	製鉄遺跡	東比田永田	鉄滓	
8	虫木城跡	城館跡	東比田虫木	曲輪、堀切	大半消滅
9	経負坂鉢跡	製鉄遺跡	東比田瀧谷	鉄滓	
10	ナメラ谷鉢跡	製鉄遺跡	梶福留	鉄滓	
11	矢瀬鉢跡	製鉄遺跡	梶福留	鉄滓、水車跡	
12	木野呂・沢田谷鉢跡	製鉄遺跡	梶福留	鉄滓	
13	芝原鉢跡	製鉄遺跡	梶福留	鉄滓	
14	足子谷横穴墓群	横穴	梶福留	II 8 年度発掘調査。人骨、鉄刀、須恵器	1穴消滅
15	梶福留古城山城跡	城館跡	梶福留	曲輪、土塁	
16	庵ノ上遺跡	散布地	西北田庵ノ上	土師器、須恵器	
17	殿ノ奥遺跡	散布地	西北田殿ノ奥	绳文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器	
18	夏見山城跡	城館跡	西北田殿ノ奥	曲輪	
19	細田城跡	城館跡	西北田	曲輪、堀切	
20	諫防川城跡	城館跡	西北田	曲輪	
21	市原鉢跡	製鉄遺跡	西北山	高殿跡	



第2図 3号横穴墓位置図 (1 / 400 赤色は平成12年度調査部分)

### III 遺跡の概要

#### 1. 3号横穴墓

平成12年度に調査を行った丘陵の西側斜面に所在する。

調査前に重機が伐採樹木搬出用の道を造成した際に須恵器長頸壺3個が出土したことから、周辺を精査したが、遺構を見つけることができなかった。

横穴墓は重機掘削された際に前庭部と玄門部のほとんどが破壊されており、玄室内部には壁面から崩落した土が堆積していた。

玄室はほぼ真西方向に開口し、形状はテント型妻入り形状を呈する。奥行き1.6m、幅1.2m、高さ1.0mを測り、床面には屍床や排水溝は存在せずほぼ平坦である。壁面は左右両側壁では壁面の崩落が著しいが、天井及び奥壁部は比較的の遺存状態が良好であった。

玄室床面には奥壁前及び右側壁前付近に人骨が計2体分埋葬されていた。骨の遺存状態は良好でなく、その配置も不規則に散乱したような状態であった。

玄室左側壁沿いの床面には人骨や遺物が全く見られないことから、埋葬の際にこの位置に人が立って作業したものと考えられる。

副葬品としては1号人骨の頭骨と奥壁の間の床面上に鉄刀が一振り刃部を奥壁側に向かた状態で出土している。1号人骨の頭骨付近からは刀子1本と先端部の欠損した赤メノウ製の勾玉1個も出土している。また1号人骨と2号人骨の頭骨の間に折り重なった骨の間に挟まれる形でも刀子が一本出土している。

### IV 出土遺物

今回の調査では、横穴墓の玄室内から鉄製品を中心とした遺物が出土している。

1は鉄製の太刀で、刀身長46.1cm、刃部の長さ37.1cm、刃幅2.5cm、厚さ0.8cmを測る。錆化が進んでおり柄や鞘などの木質は残っていないが、刀装具である長径4.2cm、短径3.8cmの鈎と長径2.8cm、短径2.1cmの鍔が残存している。鈎は両凹式である。また茎部には長さ約2.5cmの日釘が刺された状態で遺存している。

2・3は鉄製の刀子である。2は先端部が欠損しているが、残存長10.3cm、刃幅1.5cmを測る。茎部には一部に柄の木質が遺存している。3は刃部と茎部の先端が欠損しており、残存長は10.0cm、刃幅1.3cmを測る。茎部には糸巻きが施されていた痕跡があり、その上に柄の木質が一部残存している。

4は瑪瑙製の勾玉である。色調は淡橙褐色を呈する。先端部が欠損しているが、残存長は2cm、厚さ約1.1cmを測る。紐を通すための穴は片側穿孔によって空けられている。

5～7の須恵器は平成12年度調査の際、今回調査した3号横穴墓の前庭があったと考えられる部分を重機で掘削した折に出土したもので、3号穴の前庭部付近に置かれていたと推定されるもので

ある。

5は長頭盃と考えられる底部の破片で、胴部最大径は14.6cmを測る。胴部は回転ナデ調整を、底部付近は回転ヘラケズリ調整を施す。大谷編年出雲5期のものであろうか。

6は長頭盃で口縁部外面に2条の沈線を施す。口径7cm、器高17.3cm、最大幅13.2cmを測る。口縁部から胴部までは回転ナデ調整を施し、底部は丸底で回転ヘラケズリ調整を施す。大谷編年出雲5期の範疇に含まれる。

7は口縁部と脚部を一部欠損するが、ほぼ完形の長頭盃である。口径7.0cm、器高21.2cm、胴部最大径15.1cmを測る。底部には径8.3cm、高さ2.1cmの脚がついている。頭部及び胴部上半部は回転ナデ調整を施し、胴部下半から底部までは回転ヘラケズリ調整を施している。大谷編年出雲6期の範疇に含まれる。

表1 3号横穴墓出土金属器観察表

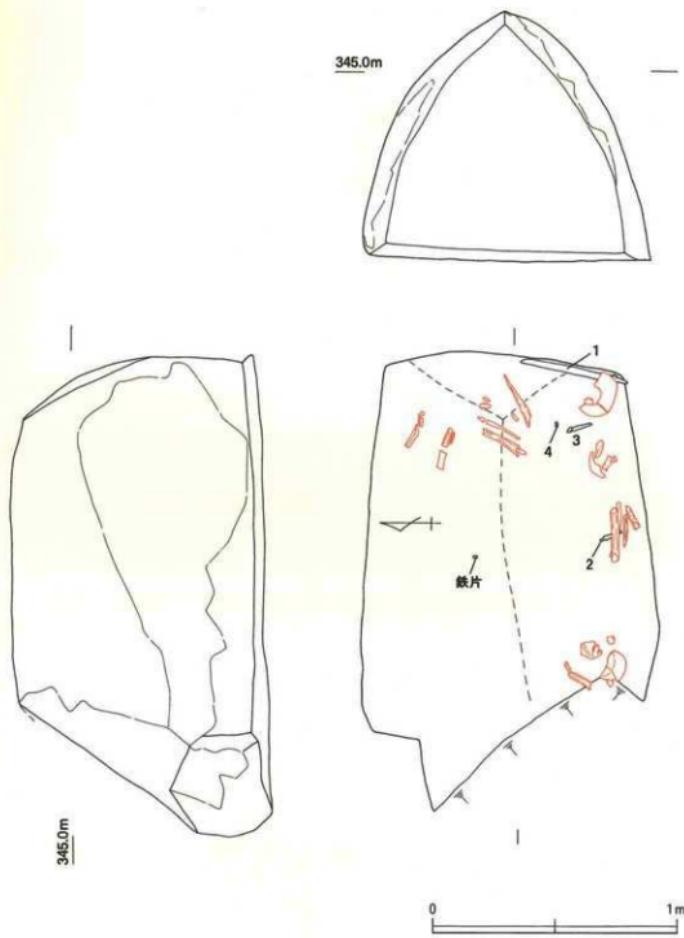
図版	器種	全長	刃部長	刃幅	茎部	刃部厚	茎部厚	備考
1	鉄刀	46.1cm	37.1cm	2.5cm	9.0cm	0.8cm	0.5cm	鍔、鷹等の刀装具、茎部に目釘
2	刀子	10.3cm(残)	7.3cm(残)	1.5cm	3.0cm	0.5cm	0.3cm	柄の木質・部残存
3	刀子	10.0cm(残)	5.6cm	1.3cm	4.3cm(残)	0.4cm	0.3cm	柄に糸巻き

表2 3号横穴墓出土玉類観察表

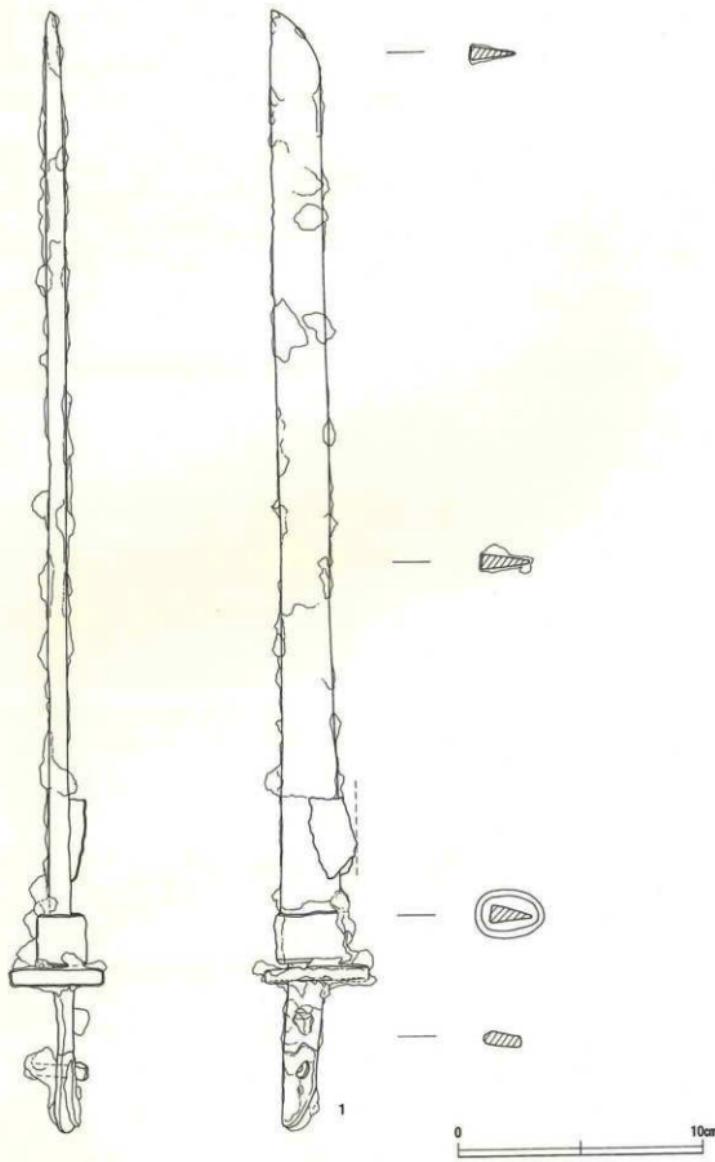
図版	器種	材質	色調	長径	短径	孔径	備考
4	勾玉	瑪瑙	淡橙褐色	2.0cm	1.1cm	0.2~0.3cm	片面穿孔、下部欠損

表3 平成12年度調査時出土須恵器観察表

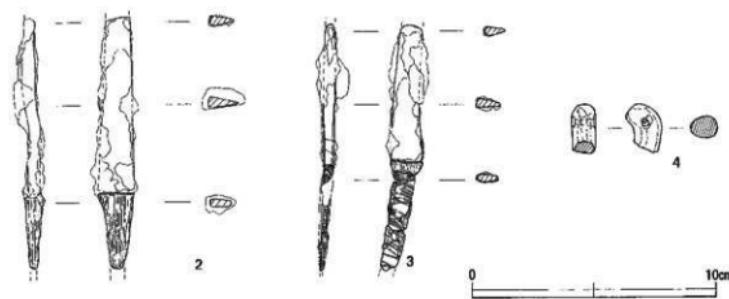
番号	器種	口径	底径	器高	特徴	備考
5	盃			5.1cm	底部回転ヘラケズリ	
6	長頭盃	7.0cm	4.7cm	17.3cm	底部回転ヘラケズリ	大谷V期
7	長頭盃	7.0cm	8.3cm	21.2cm	底部に高さ2.1cmの脚がつく	大谷VI期



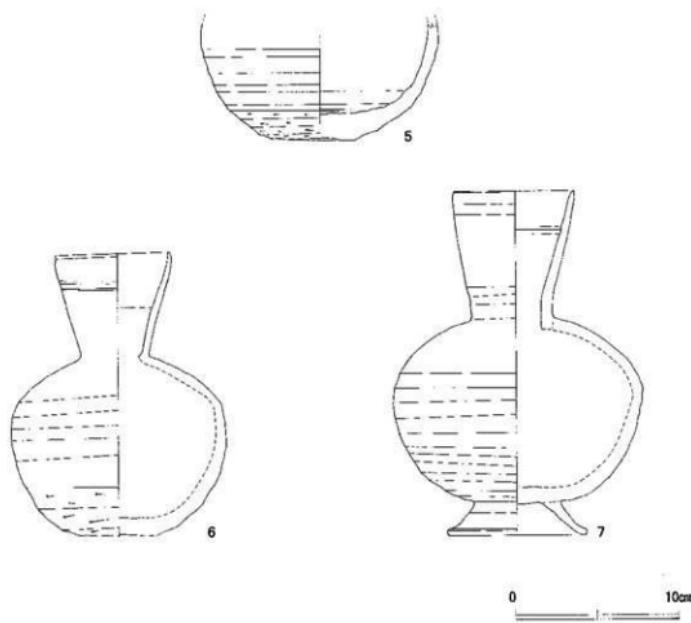
第3図 3号横穴墓実測図



第4図 玄室内出土遺物実測図1 (S=1/2)



第5図 玄室内出土遺物実測図2



第6図 平成12年度調査時出土遺物

## V ま　と　め

今回発見された3号横穴墓は、工事中の不時発見という形で発見されたために、前庭部分及び玄門が破壊されており、その全容は伺うことはできなかったが、幸いにも玄室が破壊されなかつたことで、幾つかの興味深い事象が確認できた。

この横穴墓は平成12年度に調査を行った2基の横穴墓と同様に、島根県東部の山間地域に通有な三角テント型の玄室を持つものであった。また、その年代は出土した須恵器から見て、大谷編年山雲5期の段階に初葬が行われたと推定される。

玄室内部からは人骨が2体分検出されたが、これらは鑑定の結果2体とも女性であると考えられる。

人骨は2体とも骨の配置が極めて不規則で、あたかも骨と遺物が混在した状態であった。

この事は遺骸が白骨化した後に本横穴墓へ二次埋葬された可能性を示しており、これは副葬品である刀子や勾玉が欠損し、玄室内にその破片が見受けられないことからも伺える。

このような埋葬様式を採用した事例が他の遺跡でも存在するかどうかは調べきれなかったが、この横穴墓は当時の埋葬様式の一端を窺い知ることのできる好例と言えよう。

### (参考文献)

大谷晃二 1994「山雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集

山陰横穴墓研究会1997第7回山陰横穴墓調査検討会資料「出雲の横穴墓—その型式・変遷・地域性—」

(付編)

## 経負坂3号横穴墓の人骨について

鳥取大学医学部機能形態統御学講座形態解析学分野

井上貴央

### 1.はじめに

島根県広瀬町経負坂から工事中に横穴墓が検出され、そのなかの一つの横穴墓から人骨が検出された。骨の残存状況は良くない。前庭部からは、6世紀末～7世紀初めのものと考えられる須恵器が検出されており、本横穴墓もその時期のものと考えられる。本稿では人骨の概要を紹介する。

### 2.人骨の検出状況

玄門と玄室の前方は大きく削り取られており、玄室内は崩落土で埋められていた。崩落土は玄門側に厚く堆積しており、奥方に進むにつれて厚さが薄くなっていたが、床面はすべて崩落土で覆われていたとのことである。葬道から見て右側壁は80%程度の壁面が20～30cmの厚さにわたって、左側壁は40%程度の壁面が10～20cmの厚さにわたって剥離崩落していた。玄室の左前方からは人骨はまったく検出されておらず、追葬時に玄室内に入った際の作業スペースとも考えられたが、骨は無秩序に散乱した状態で検出されているので、真偽のほどは不明である。

なお、本横穴墓には造り付けの屍床は認められず、排水溝も存在しない。また、閉塞石の有無は不明であり、玄門の上層断面は作製されていない。玄室内からは土器はまったく検出されていないが、図に示すように大刀、刀子、勾玉が検出されている。葬道から見て玄室の右手前と右奥方に頭蓋骨が、玄室奥と右側方には頭骨が認められた。

骨の散乱状況からすると、頭蓋骨の分布は3カ所にわたっており、一見すると3体の埋葬があったようにも受けられた。しかし、玄室奥方から検出された頭蓋骨は接合が可能であり、同一人骨のものと確認された。

本横穴墓の発見時には玄門からの土砂の流入が認められ、葬道から見て手前と左側に土砂が厚く堆積しており、その下層からは骨が検出されなかった。

### 3.検出人骨の概要

葬道から見て玄室右奥に認められた頭蓋骨を第1頭蓋、手前に認められた頭蓋骨を第2頭蓋と呼ぶことにする。

第1頭蓋は頭蓋冠の一部が検出されているのみであり、前頭骨、左頭頂骨、右頭頂骨の一部、後頭骨からなる。三主縫合の閉鎖状況を見ると、冠状縫合は内板、外板とともに未閉鎖である。また、人字縫合も内板、外板とともに閉鎖していない。前頭骨の膨隆は比較的著明で、眉間はやや突出しているようである。頭蓋冠の厚さは中程度であるが、外後頭降起付近では厚くなっている、項面のレリーフはやや粗造である。本頭蓋骨は残存部位が少ないため、性別の判定は難しい。女性骨をうかがわせるが確実できない。年齢は壮年と考えられる。

第2頭蓋は前頭骨、左右頸頂骨、後頭骨からなる。三土縫合の閉鎖状況を見ると、冠状縫合の外板は未閉鎖であるが、内板はやや総合閉鎖が進んでいる。また、矢状縫合の外板は未閉鎖であるが、内板は閉鎖が進んでいるようである。人字縫合も同等の所見で、内板ではやや総合閉鎖が進んでいる。本頭蓋は全体的に小さく、華奢な印象を受ける。眉弓は平坦で眼窩上縁部はするどいようである。顎面のレリーフはやや著しく、外後頭陥起は発達している。頭蓋骨全体から考えて、本頭蓋は女性骨であることは確実であり、年齢は壮年と考えられる。

上肢骨を見ると上腕骨および上腕骨片がそれぞれ1点検出されているのみである。下肢骨では大腿骨の右側が2点、左側が1点検出されている。これらの大腿骨はいずれも骨端部を欠き、骨最大長は計測できない。脛骨では左右それぞれ1点と左右不明の胫骨片が1点検出されている。そのほかに、四肢骨（長骨）と考えられる骨片が3点検出されているが、部位を特定できない。

右大腿骨が2点検出されていることから判断して、本横穴墓から検出された四肢骨は少なくとも2体のものであることは明らかである。玄円付近から検出された大腿骨と玄室奥方から検出された大腿骨は、特徴が似ていて同一人骨の左右対である可能性もある。検出された大腿骨は全体的に華奢で、女性骨をうかがわせる。

以上の四肢骨は、本横穴墓から検出された2個の頭蓋骨のうち、どちらに属するかの判定は極めて難しい。

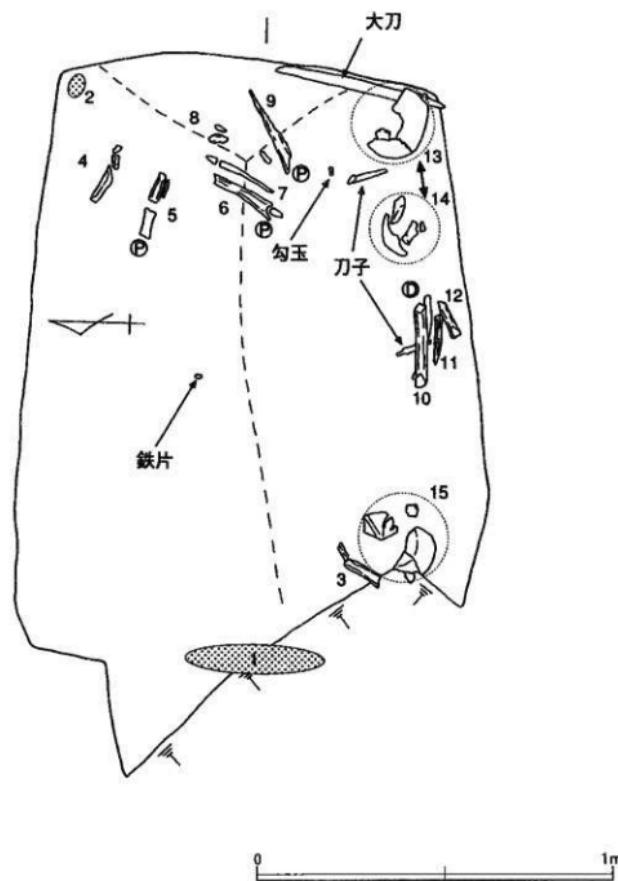
#### 4. 考察

本横穴墓の人骨は保存状況が極めて悪く、詳細な検討を行うことができなかつたが、少なくとも2体の骨が混在しており、いずれも壮年女性の人骨ではないかと考えられた。計測に耐え得る人骨は検出されていないので、推定身長や人類学的特徴については言及できない。

稿を終わるに当たり、本人骨の調査の機会を与えていただいた広瀬町教育委員会の各位、とりわけ、実測図の作製や骨の取り上げでお世話になった舟木 聰氏に御礼申し上げる。

## 図説

経負板3号横穴墓の人骨検出状況。数字は骨の取り上げ番号を示す。P: 近位端、D: 遠位端。



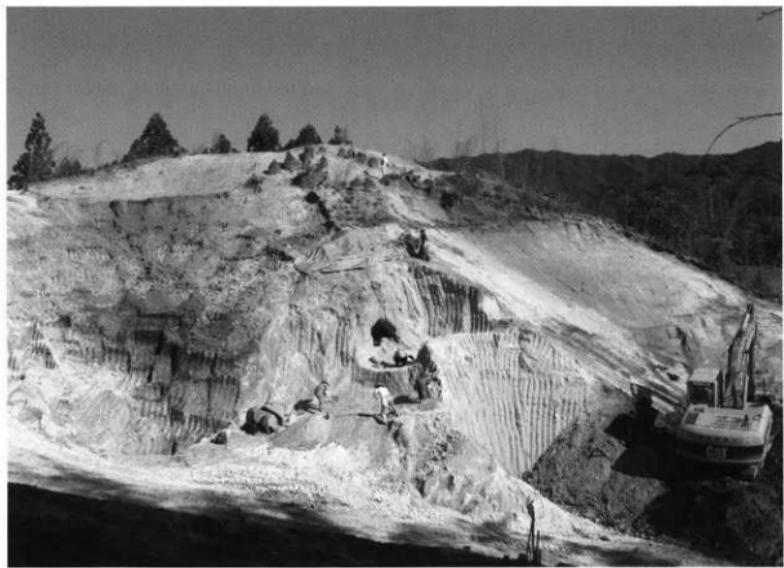
番号	骨名	左右	部位	備考
1	大腿骨	左	P欠-C-D欠	10とは別個体
2	側頭骨片			
3	長骨片			
4	脛骨片、側頭骨片			
5	脛骨	左	C	6と対
6	脛骨	右	P欠-C-D欠	5と対
7	上腕骨	不明	C	
8	長骨片			1と対?咬痕(+)
9	大腿骨	右	C	
10	大腿骨	右	P欠-C	
11	長骨片			
12	上腕骨片?			
13	頭蓋骨			前頭骨、左頭頂骨、右頭頂骨の一部、後頭骨
14	頭蓋骨			前頭骨、左頭頂骨、右頭頂骨、後頭骨
15	長骨片			

# 図版



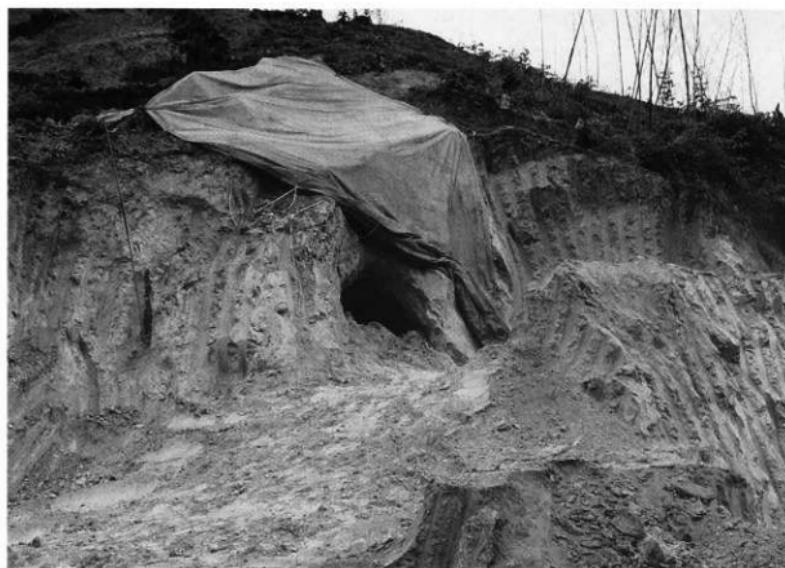


調査地遠景（南から）

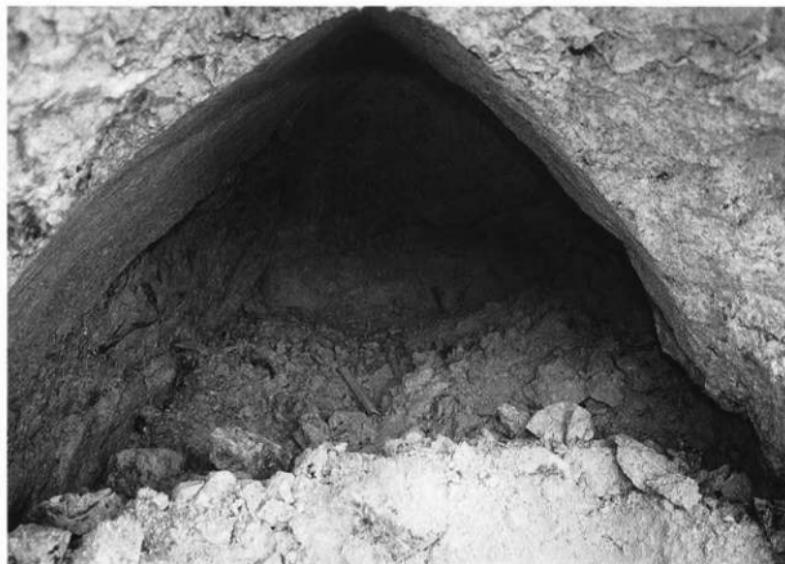


3号横穴墓開口状況（北西から）

図版 2



発見時の状況（西から）



発見時玄室内状況（西から）



玄室内の状況（土砂除去後、西から）



玄室内奥壁付近人骨出土状況（西から）

図版 4



太刀出土状況（西から）



勾玉・刀子出土状況（西から）



完掘状況（南西から）



完掘状況（西から）

図版 6



1



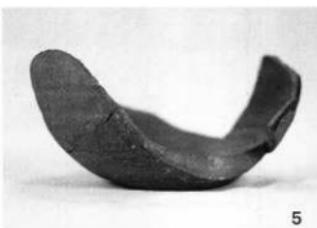
2



3



4



5



6



7

出土遺物



1



2



3

鉄器 X 線写真

## 経負坂古墳群Ⅱ

一般県道草野・横田線(東比田工区)  
特別県単事業に伴う  
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

2003年3月

発行 広瀬町教育委員会  
島根県邑美郡広瀬町広瀬811  
印刷 桑太陽平版  
島根県安来市安来町765-5